

登録コード:MH506100 開講年度:2026		授業科目区分	学科共通専門科目 必修(看護・理学・作業) 選択(検査)
科目名	リハビリテーション概論【20M以降】 Introduction to rehabilitation		
担当教員	青木 薫 百瀬 公人・西澤 公美・小宅 一彰・上村 智子・中山 佳子		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	全専攻/ 1 年 後期 水曜・ 2 時限		
単位数、講義室	2 単位	多目的講義室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標
	MH20カリ・保健		
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。	リハビリテーションの種類、方法、過程、関わる職種を理解し、説明できる。	
	MH25カリ・保健・看護, MH23カリ・保健・看護		
	基礎的・専門的な知識と技能 看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	リハビリテーションの種類、方法、過程、関わる職種を理解し、説明できる。	
	MH25カリ・保健・検査, MH25カリ・保健・理学, MH25カリ・保健・作業, MH23カリ・保健・検査, MH23カリ・保健・理学, MH23カリ・保健・作業		
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	リハビリテーションの種類、方法、過程、関わる職種を理解し、説明できる。	
	MH25カリ・保健・看護, MH25カリ・保健・検査, MH25カリ・保健・理学, MH25カリ・保健・作業, MH23カリ・保健・看護, MH23カリ・保健・検査, MH23カリ・保健・理学, MH23カリ・保健・作業		
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	患者の障害に対するリハビリテーションに関して、必要なアプローチ・医療チームを検討することができる。	
授業で学べる「テーマ」	健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	リハビリテーションの入門として、リハビリテーションの定義や分類、具体的な過程などの概要を解説します。また、リハビリテーションにおけるチーム医療の意義と様々な医療従事者の役割について専門的な立場から解説します。 本授業は、1年次に学ぶ「健康科学概論」、「栄養学」、「遺伝と病気」の内容と相補的に学んでいくことになります。そして、本授業の内容は、2年次、4年次の看護学実習(看護学専攻)、4年次の臨床実習(理学・作業療法学専攻)における重要な基礎知識となります。 本授業は男女共同参画に関する内容を含んでいます。 本授業は、リハビリテーションにおける各専門職(医師、看護師、理学療法士、作業療法士、公認心理師、メディカルソーシャルワーカーなど)としての実務経験を活かして講義を行います。		
授業計画	第 1 回 (9月30日) 障害とリハビリテーション医療 (青木) 第 2 回 (10月 7日) 日常生活の障害 (青木) 第 3 回 (10月21日) リハビリテーション医療の職種との役割 (青木) 第 4 回 (10月28日) 地域におけるリハビリテーションの概要 (百瀬) 第 5 回 (11月 4日) リハビリテーションにおける理学療法士の役割 (西澤) 第 6 回 (11月11日) 小児のリハビリテーション (中山) 第 7 回 (11月18日) リハビリテーションにおける言語聴覚士の役割 (寺島) 第 8 回 (11月25日) グループワークのオリエンテーション (青木) 第 9 回 (12月 2日) リハビリテーションにおける公認心理師の役割 (児島) 第10回 (12月 9日) リハビリテーションの過程とチーム医療 (小宅) 第11回 (12月16日) リハビリテーションにおける作業療法士の役割 (上村) 第12回 (12月23日) リハビリテーションにおける看護師の役割 (今澤) 第13回 (1月 6日) がんのリハビリテーション (青木) 第14回 (1月13日) リハビリテーションにおけるソーシャルワーカーの役割 (犬飼) 第15回 (1月20日) グループ発表・討論会、授業アンケート (青木) 第16回 (1月27日) まとめ(レポート作成) (青木)		
授業の進め方	スライド、配布資料を用いた講義を中心とします。リハビリテーションにおける各分野の専門家による講義を行います。課外学習としてグループワークを課し、最終日にグループ発表、討論会を行います。		
テキスト、教材、参考書	参考書 入門リハビリテーション概論 中村隆一編 医歯薬出版 参考書は青木研究室にあります。		
成績評価の方法	レポート・提出グループ課題・討論会に基づいて、総括的に成績を評価します。 総括的評価の配分は、レポート60点、グループ発表課題20点、討論会20点とし、総計の60点以上の得点を合格とします。 提出レポートについて、前半1題、後半1題のレポートを課します。1題30点とし、2題で60点に相当します。2題のレポート提出は必須とします。 討論会では提出されたグループ課題についての発表を行い、発表内容、発言により加点します。		

成績評価の方法	グループ課題の提出は必須とします。 レポート，提出グループ課題では，リハビリテーション医療の概要および各専門職の役割について，代表的な疾患に対するリハビリテーション法についての理解度を確認します。
成績評価の基準	レポート・提出グループ課題について，(i) 問題の設定が適切であり，(ii) その問題背景を説明できており，(iii) その問題にどのような課題があるかを指摘できており，(iv) それらの課題に対して解決法を適切に把握できており，(v) その上で自分見解を提示できており，かつ教員を感心させるレベルにあれば「卓越している(秀)」，(i) から(v) の5項目を満たしていれば「かなり上にある(優)」，4項目までできていれば「やや上にある(良)」，3項目までできていれば「水準にある(可)」と評価します。 提出レポート・提出グループ課題・討論会の総計により，成績評価の判定基準は以下の通りとします。 90-100点：秀，80-89点：優，70-79点：良，60-69点：可
事前事後学習の内容	【事前学習について】 授業前日までに講義の配布資料をeALPSにアップロードしますので、授業前に読んでおい てください。 【事後学習について】 授業の内容について深く掘り下げ，まとめ，感想，自分の意見を述べるレポートを前半1題，後半1題作成します。その判定基準を「成績評価の基準」に記載しました。 本授業の単位修得には、90時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とする。 授業時間30時間（2時間×15回）＋事後学習時間60時間（4時間×15回）＝90時間 以上の自己学習時間を考慮して、事後学習に意欲的に取り組むこと。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	質問，相談については講義時間中には各教員が個別に質問に対応します。 講義時間以外の質問への対応：青木 薫 kin29men@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時（要事前連絡） 保健学科南校舎1階 青木研究室